

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100666		
法人名	有限会社ほほえみ グループホーム日陽		
事業所名	有限会社ほほえみ グループホーム日陽 1階		
所在地	名古屋市港区六軒家1022番地		
自己評価作成日	令和5年10月2日	評価結果市町村受理日	令和6年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2371100666-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設20年目を迎え、地域の方々に施設の存在を認識していただけるようになってきた。職員の離職も少なく、職員同士のみならず、地域の方々にも顔見知りとなるよう施設が存在できるようになってきている。
 共用型デイサービスを開設し、認知症利用者の在宅支援にも力を入れている。また、施設の周りは田んぼや畑が広がる環境で、利用者の皆様も散歩などで景色の移り変わりを楽しみながら生活することができている。玄関先や屋上に出るだけでも季節を感じ、快適に暮らす事を目標にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームでは、共用型デイサービスを実施しており、デイサービスを利用しながらホームでの生活に慣れてから、利用者や家族の状況に合わせてグループホームに入居することができることで、利用者の生活場所の円滑な移行につながっている。感染症問題が長期化したことで、外部の方との交流や外出の取り組みが制限された状況が続いていたが、今年度に入り、様々な取り組みが緩和されている。運営推進会議を対面方式で再開し、区内の介護事業所の方との情報交換等が行われている。家族との交流会についても、今年度の敬老会に家族にも参加を呼びかけており、利用者や家族との交流の機会がつけられている。また、外出行事についても徐々に増やす取り組みが行われており、今年度は市内の公共施設に出かけたり、夕食等を行う等、利用者の楽しみにつなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念に基づき、実践につながるよう日々努めている。一方で理念全てが頭に入っていないかったり、意識が薄くなっている、具体性が乏しく実践に繋げるには難しい、といった意見もある。	ホームの基本理念を職員による支援の基本に考えながら、ホーム内に理念の掲示が行われている。また、理念と合わせて独自の「七訓」がつくられており、日常の支援を通じて、理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ感染症が5類へ移行し、今年度より涅槃会や秋祭りを地域住民にも参加いただけるよう感染対策を行いながら実施しており、地域との繋がりを大切にしている。	地域の方との交流については、徐々に交流を再開しており、地域の行事にホームも関わる等、可能な範囲で交流が行われている。また、代表者が地域の方でもあり、地域の方との日常的な交流も行われている。	地域で行われているサロンが再開しており、当ホームにも案内が行われている。今後の感染症の状況もみながら、地域の方との交流が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	感染症対策として、地域のサロン等への外出がまだ再開となっていないが、デイサービス事業の利用者様が増えてきており、地域の認知症の方及びご家族様への支援ができていと思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度より、参加福祉施設が増えより充実した意見交換ができるようになった。交わされた意見やアドバイスで有益なものは取り入れ、サービス向上に生かしている。	会議については、今年度より対面方式での実施に移行しており、会議の関係者との交流の機会にもつながっている。また、会議に他の介護事業所の代表者が参加しており、運営上の助言等に機会にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者やケアマネは、保護係と日頃から連絡を取りあい、保護受給の利用者の生活状況を報告している。また、施設の空き状況等も報告し、連携している。介護職員は直接的には関わらないので解らない。	生活保護の方が生活していることもあり、市担当部署との情報交換等が行われている。また、当ホームで共用型デイサービスを実施していることもあり、地域包括支援センターとの情報交換等の機会にもつながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年に2回程度研修を行い、身体拘束をしないケアの理解を深めるよう努めている。玄関の鍵は夜間以外は開いている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内に施錠を行わないように職員間で利用者の見守りが行われている。運営推進会議を通じた身体拘束に関する情報交換も行われており、定期的な検討の機会にもつながっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設スタッフ半数以上が高齢者虐待防止法について学んでおり、虐待を見逃さないよう、利用者様が安心して生活出来るよう努めている。時に、言い方が強くなり、言葉が不適切になる事がある。新規採用職員には学びの場がない為、OFFJTで時間を使って理解を促したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	身元保証と後見人制度の違い等、知識不足のスタッフが多いが、定期的に権利擁護の研修を行い、事業所として個々の必要性に合わせて活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の契約は管理者が時間をかけて説明し、行っている。また、デイサービスの契約はケアマネも行い重要事項説明書なども使用しながら、説明を行っている。不安や質問があれば対応している為、安心され納得し入居していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱は設けているが、投書は見たことがなく、機能を果たしていない。 今年度より、家族会が再開され、家族様の意見を聞くことができています。 利用者や家族の心情を察し、意見や要望を出してもらえよう配慮している。	ホームでは、中断していた敬老会を兼ねた家族との交流会を再開しており、多くの家族の参加が得られている。利用者や家族からの要望等については、法人代表者でもある管理者が対応している。利用者の暮らしぶりについては、定期的な便りの他にもユーチューブ動画でも公開している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に一度、管理者は職員一人ひとりと面談する機会を設け、業務や日常生活の不安や心配事なども親身になって聞いてくれている。 日常や会議などで職員同士の意見交換や改善提案を行い、反映できている。	ユニット毎の会議とユニット合同の会議を実施しており、職員からの細かな意見等を把握し、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。法人代表者でもある管理者による職員面談の取り組みも行われており、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各自、よりよく働けるよう、環境や条件の整備に努めている。一方で、内容が充分といえない・努力が報われないといった意見もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ渦以降、対面研修からオンライン研修に切り替え、年に2回以上の研修を行っている。施設スタッフが共通の研修を受講することで共通理解が出来ている。また、資格取得の為に研修費用を負担してくれ、必要な研修を受ける機会が得られている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ渦以降、対面研修が極端に減ったため、同業者と交流する機会がほぼ無いのが現状。また、数少ない対面研修でも、受講者同士の対話に制限が厳しく、積極的に交流できる環境に無い。しかし、メディア等を利用してサービス向上に努めるスタッフもいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	要望や希望に耳を傾け、信頼関係が築けるよう努めている。しかし、インテーク面談時に本人様が来られることは稀であり、サービス導入時に本人様の意見を聞けることが少ない。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の話を傾聴するように努め、心を開いて相談していただけるよう、信頼関係作りに努めている。 インテーク面談でご家族様と何時間も面談しているのを見た。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当施設のサービス導入＝入居の為、ご家族様の必要支援は満たされていると考えられる。本人様としては、入居が必要支援と考えられない人もいますが、入居後の生活でニーズや希望が満たされるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	話を聞いたり、聞いてもらったりしながら、共に過ごし、支えあう関係を築けるよう努めている。 思いやりを持って接し、押し付けにならない関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族様の絆を大切にしながら、ご家族様は利用者様の良き資源としてご協力を仰いでいます。感染予防の為、面談に制限はあるものの電話やテレビ電話等も活用しながら限られた方法でも環境を整えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者様の思いに応じ、できる限りの支援は努めたい。しかし、入居後は施設へ訪問してくれる利便性から、利用者様がわざわざ行くこととされない。 コロナの制約もあり、馴染みの人との交流も特にならない。	外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には、携帯電話等を通じて交流を継続する等、ホームからも必要な支援が行われている。家族との外出も緩和されており、食事等を通じた外出も可能になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の関係性を見極めながら、リビングの座席の配置や全員参加のレクリエーションの順番や内容を考慮している。また、利用者様同士が声を掛け合ったり、助け合ったりする姿もみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	それまで携わった関係性を大切に必要に応じて支援している。サービス終了後も手紙や電話をいただき、感謝を伝えられる場面があり、会議を通してスタッフにも伝えられる。よい関係があるからこそであると考えられ		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段のコミュニケーションの中から、一人ひとりの思いや意向に沿った暮らし方ができるよう、把握に努めている。実現困難な要望であっても、少しでも満足が得られるようにそれに代わる案を考えて対応するよう努めている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者の目標を考える等、一人ひとりの意向等の把握が行われている。また、毎月のカンファレンスを実施しており、利用者や家族の意向等を検討し、日常の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	認知症があり、ご家族様もいらっしゃらないと、把握にも限界はある。しかし、インタビュー面接時より生活歴・生活習慣・性格などの情報収集に努め、これまでに介護サービスを利用していた方はケアマネや関係者からも話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	行動や言動等を観察し、把握に努めている。普段と変わったところはないか、何となくいつもと違うところも見逃さないようにしている。それらの情報をもとにサービス計画を作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	より良い暮らしのために、アセスメントとモニタリングを繰り返したり、各階ミーティング時に個人の生活面や体調面について話し合い、情報共有をおこなっている。また、本人の希望も反映させた計画がさくせされている。	介護計画については、3か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、日常的に介護計画に関する確認等が行われており、定期的なモニタリングの実施につなげる取り組みが行われている。	担当職員を中心に定期的に作成している利用者に関する目標と介護計画の内容とつながること等、今後の向けたホームの取り組みにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	些細な事でも個人記録に記載し、利用者様が気になる事や楽しめる事の気づきにつながるよう心がけている意見が多い一方、全体やすべてを記入することは困難との意見もあり、その場合は口頭で申し送りを実施、計画見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	全てにおいて柔軟に対応できていないとの意見もあるが、単独・小規模の特性を活かし、一人ひとりの希望に添えるよう食べたいものを提供したり、外出に付き添う等し、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	感染症予防の為、地域資源の活用はできていない。しかし、それぞれの力を発揮できるよう、エンパワメントを意識して支援・援助を安全に行えるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・ご家族様にご納得いただいたうえで、当施設の協力医療機関をかかりつけ医としている。希望の医療機関を継続することも可能。どちらの場合でも、報告・連絡を定期的に行い、適切な医療を受けている	ホームでは、複数の医療機関との連携が行われているが、協力医による定期的及び随時の医療面での支援が行われている。専門医等、他の医療機関との連携も行われている。また、看護師が勤務しており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日頃から、介護職員は看護師に利用者の心身の変化や異常を報告し、適切な処置や診療に繋げている。電話対応あり。施設看護師が必要と判断したときは、協力医療機関の看護師と連携し、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療ができるよう、入退院時の情報交換や医療機関との連携に努めているが、入院先の病院によっては、ご家族様にしか詳しい状態をお伝えいただけないことがあり、スムーズな退院受け入れ支援が困難な場合もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化指針についてご家族様に理解を得ている。また、終末期に近づいた際は、再度医師・看護師・薬剤師・管理者・介護職とご家族様とでカンファレンスを行い、チームで支援に取り組んでいる。	身体状態の重い方も生活を継続できるように支援が行われており、利用者の状況等に合わせた看取り支援も行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、ホームで支援可能な内容等の話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	基本的な対応はマニュアルが目の届きやすいリビングに提示してあるが、実際に行ったことのあるスタッフが少なく、訓練で習得した事が実践に活かせるか不安に思っているスタッフもいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回以上避難訓練を行っている。うち1回は夜間帯を想定して行っている。利用者様にも協力していただき、避難方法を模索しているが、地域との協力体制はとれていない。	年2回を基本に避難訓練を実施しており、夜間帯を想定した訓練や通報装置の確認等も行われている。管理者も地域の方でもあり、近隣の方との交流が行われている。また、備蓄品の他にも発電機の設置が行われており、停電対策も行われている。	通報装置の経年劣化もあり、ホームでは装置の交換工事を実施している。災害に関する様々な検討を重ねながら、利用者の安全確保につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	時々言葉が強くなってしまふことがあるという意見がごくわずかにあるが、できる限り穏やかに、それぞれの方にあつた言葉かけをするよう、意識を持って対応している。時に、馴れ馴れしいと捉えられたり、失礼と捉えられることもある。	基本理念と共に掲げられている「七訓」には、職員による利用者への対応等に関する「心得」も記載されており、職員間での意識向上等につなげている。また、利用者の化粧等への配慮を行う等、利用者を尊重した対応につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	普段のかかわりから、利用者様が大切にしていることや希望に気づき、こちらが言葉に出すことで本人も気付いていない思いや希望を表出できるよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している。	大まかな日課は決まっているが、本人が無理なく心地よく過ごせるよう支援している。入浴・食事・レクなど、拒否があつた場合や体調不良時は、時間をずらして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	限られた本人の衣類の中からでは難しい面もあるが、衣類はできる限りご自分で選んで着替えていただくようにしている。極端に季節を逸脱している場合でも、理由を伺い説明・納得して着替えていただくこともある。理美容は大変喜ばれる。浴衣レクやマニキュアを塗る等のレクも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	畑での収穫や野菜の下処理を利用者様と行うことがある。また、食後の食器拭きは利用者様に行つていただく事が習慣化されている。好き嫌いを把握し、食欲が湧く配膳を心がけている。	食材業者のメニューを参考にしながら調理が行われており、利用者も調理や片付け等、できることに参加する機会がつくられている。おやつ作りや季節等にも合わせた食事の提供も行われている。また、職員も同じ食事を行う取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	疾患に応じて、医師と連携し必要量の提供や、摂取方法の検討をしている。拒否や必要以上の希望があつても、お声がけや工夫をし、一人ひとりに合わせた支援を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行つており口腔内の清潔保持に努めている。義歯の方は、毎晩義歯洗浄剤を使用している。また、年に一度の歯科検診を全員に実施し、口腔状態の確認・必要な方には歯科医師に毎週の口腔ケア実施を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	記録を確認しながら声掛けを行い、排泄記録をみて、排泄パターンを把握するように努めている。使用物品については、清潔・自立にむけてトイレでの排泄を促している。紙パンツの使用などはミーティングにてスタッフで話し合い、移行していく。	利用者の排泄記録を残し、申し送り等を通じて、職員間で情報を共有し、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。利用者の水分摂取の工夫を行う等、排泄状態の維持、改善につなげている。また、排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	多くの入居者様が排便コントロールの為に内服薬を服用中であるが、薬に頼るだけでなく、運動や水分摂取、お腹のマッサージなどの実施により、排便状況を記録で確認しながらケアに繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	主に午前中に入浴いただいております。入浴曜日は感染症に留意し、職員が決めています。しかし、無理強いをすることなく入浴できるような声掛けや、時間を改めてお声がけすることもある。自立度の高い利用者様へは、毎日シャワーができるような支援も行っている。	毎日の入浴の準備を行い、週3回の入浴ができるように支援が行われているが、利用者の希望にも合わせた入浴の回数にも対応している。利用者の身体状態に合わせた職員2名での支援も行われている。また、「バラ湯」等、入浴を通じた楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中でも、横になっていただいたり、空調の調整や衣類・布団干しを定期的に行い、心地よい環境を整えている。夜型の生活習慣であっても、夜更かしを認めるわけではなく、健康を第一に考えた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全ての薬の作用・副作用を全職員が理解することはできていない。しかし、処方された薬の服薬にミスがないよう、本人・スタッフのダブルチェックの実施や、内容に変化があった場合は注意して観察を行っている。疑問があれば、薬剤師や看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居時に生活歴を伺い、会話のきっかけにしたり、普段の会話の中から趣味や嗜好を伺い、施設生活がより楽しみなものになるよう支援している。計算ドリルやクロスワード等で達成感を得てもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染症対策で、外出できない事もあります。本人やご家族の希望があれば、徐々に実現しつつある。以前のような積極的な外出は行っていないが、今年度より屋外への遠足等の遠出も行っている。地域の人々との協力は行っていない。	今年度に入り、利用者の外出の機会を徐々に増やしており、季節や天候等にも合わせながら、様々な場所に外出する機会がつけられている。市内の公共施設や外食の取り組みも行われており、利用者の楽しみにつなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご希望がある方には、現金を所持していただき、安心感を得ていただいている。しかし、トラブルにならないようにご家族様にも了解をいただく。今年度に入り、希望者様には外出・お買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取次ぎを行っている。また、郵送物は本人にお渡しし、居室に飾っていただいている。こちらからの提案により、帰宅願望が強く出現する懸念がある方もいらっしゃるのので、積極的には行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間に、レクで作成したクラフトが飾りっぱなしになっていたり、整理整頓されていないこともある。一般的な家庭の温度を保つよう調整しているが、利用者様にとっては、寒いと訴えられることも多い。	ホーム内は広めの空間が確保されており、利用者が日中の時間をゆったりと過ごすことができる生活環境がつけられている。リビングた通路には、様々な飾り付けが行われたり、行事等の写真を掲示する等、アットホームな雰囲気づくりも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	思い思いに過ごすことができるように席の配置を考えています。また、自由に居室に戻れるようにしています。見守りができるように、利用者様同士のみで居室で過ごすことは控えていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたものが使用できるよう、入居時にご希望をうかがっています。また、個々の居室には様々なインテリアがあり、本人の好みのポスターや写真が飾ってあります。車いすなど使用される方のレイアウトはスタッフが行うことが多いです。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物を持ち込んでいる方や以前の利用者が残した家具類を活用している方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、利用者の中には、趣味の物を持ち込んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや居室の扉への明記を行いわかる事の支援ができています。又、手すりやフラットな床の為、安全に生活できるような環境がある。しかし、廊下やロビーに物が置いてあることがしばしばあり、非常時などにおいてはさらに危険なため改善の余地があるといえる。		